

大地と生態系と人の物語

池田市街地をぶらりジオ散歩【後編】

いかぶさってできた扇状地地形です。扇状地とは字のとおり「扇」にソックリな地形で、山の盛り上がり（隆起）と川が山を削る作用（浸食）によってできます。

造られ、明治初期までは藍作、昭和終わりごろまで養蚕のための桑園などが盛んに行われていました。

るのは昔、大きな地すべりが起こり、対岸の岩石・土砂が運ばれてきたからだと考えられています。

池田町市街は、本町筋のうだつの町並みなどたくさんの歴史文化的なポイントがあります。今回のジオパークを知ろうでは前回に引き続き、池田町の大地について紹介したいと思います。

四国山地の隆起と浸食によって大量の土砂が運ばれ、平地にできると、谷あいには比べて水の流れは緩やかになるため、大きい石からドンドンたまってきます（図1）。

池田町市街地の小高い山シンヤマ。池田町史によると、この地区の中腹の畑からサヌカイト（注1）でできた石鏃（注2）とその破片が発見され、シンヤマ古墳があるなど、古代の人々の歴史文化の謎が秘められている地域です。

現在のシンヤマは耕作地がたくさんあり、ここで作られる農作物は、阿讃山脈と巨大地すべり、そしてその上で暮らす人々の営みがあつてもたらされた「大地の恵み」なのです。

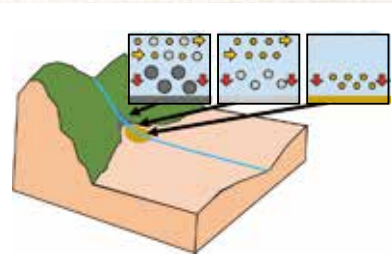
イケミナミは扇にソックリ

池田町は祖谷や山城などと比べると平地が多いですが、ため池が少なく、古くから干ばつや吉野川の洪水に悩まされてきた地です。

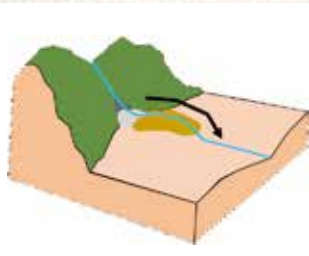
は平地にたまたると、川は蛇のようにうねりながら流れを変えます（図2）。

この地域の大地は、他の池田町市街地の大地とは全く違うものです。池田町市街地の基礎は変成岩という岩石からできています。一方で、シンヤマは砂や泥が固まってできた岩（砂岩・泥岩）の破片から作られた大地で、変成岩ではありません。

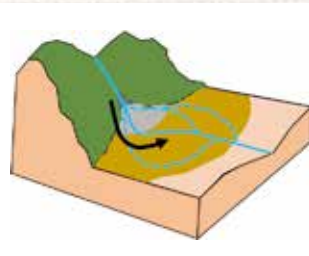
冷えて固まった岩石（注1）香川県で採れるマグマが冷えて固まった岩石（注2）石製の矢じり（注3）日本の地形6近畿・中国・四国「292頁



【図1】山に近いほうから大きな石がたまる



【図2】川が蛇行する



【図3】扇状地ができる

池田町シンヤマには新池があります。この新池は古くからため池として活用され、阿波国三好郡村誌（1881年）には、灌漑面積が12町8反7畝18歩、現在の面積でいうと約13万㎡と記載されています。イケミナミの大地は主に、新池の奥の南西方向の谷川から流れてきた土砂によって覆

池田町以外でも扇状地がある地域があります。三野町は数多くの扇状地が阿讃山脈の南麓側に存在しています。三野町の扇状地の上は水はけが良いために、多くのため池が

シンヤマを作る岩石は、吉野川対岸の阿讃山脈を作っている岩石と同じです。つまり、阿讃山脈の岩石や土砂がシンヤマを作っているのです。異なる岩石がシンヤマにあ

【お問い合わせ先】三好市教育委員会文化財課 ☎72・3910

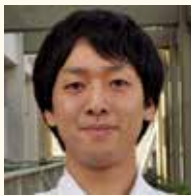


地域おこし協力隊 活動報告

三好市教育委員会 生涯学習・スポーツ振興課 勤務 薄田 克彦



三好市役所 地方創生推進課 勤務 井上 琢斗



10月23日、黒川市長を委員長とするウエイクボード世界選手権大会実行委員会が開催され、大会計画が承認されました。ラフテイング世界選手権大会の感動と興奮が冷めやまない中、いよいよ来年三好池田湖に世界で約3000万人もの人々の心を揺り動かす一大マリンスポーツと成長した歴史ある大会「ワールドウエイクボードチャンピオンシップ」の30回記念大会が、アジアで初めて三好市で開催されます。



世界約30か国からトッププロライダーが大会会場に認定された三好市池田湖に集結し、各クラスの世界チャンピオンをかけて熱いセッションが繰り広げられます。その模様は世界中のテレビ、インターネットなどのメディアを通じて開催地である三好市の魅力とともに世界中に発



▲コエグロのある風景 ▲かづら工芸

「徳島の自然を暮らしに取り込むプロジェクト」始動！ 祖谷へ移住しておよそ1年。この地域に暮らして特に感銘を受けたのは、植物資源をうまく活用した、自然との共生の暮らしが息づいていることです。例えば、傾斜地で農業を営む際に利用される「コエグロ」がその象徴として挙げられます。この地域では、カヤを刈り取った後に積み上げてコエグロを作ることによって、必要な時に細かく刻んでから畑に投入することで土壌流出や雑草繁茂の防止、また肥料として活用しています。かづら橋も植物資源を

活用した事例の一つと言えます。祖谷の人々は地域にある資源を上手く活用して溪谷に橋をかけ、生活の向上を図ってきました。現在、祖谷ではそのかづら橋に利用されるかづらより径の小さい「ツヅラカズラ」を利用したかづら工芸の技術が伝えられています。しかし、西祖谷では現在職人3名を残すのみとなっており、地域のかづらを利用する技術・知識・文化が失われつつあります。こうした背景から、かづらを使った新しい製品開発を通して、地域の植物資源を活用し後世に伝えるプロジェクトを、徳島大学にしながら連携して実施しています。県内のデザイナーと協働して、かづらを利用したお土産と家具の開発を計画しており、完成品は試験販売を通して製品化する予定です。プロジェクトを通して祖谷の素晴らしい自然循環の暮らしを多くの人々に伝えていきたいと思います。